



# 学校だより 11月 第350号

横浜市立六つ川西小学校 (TEL) 742-6301 (FAX) 743-2394

URL <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsukawanishi/index.html>

## 「一隅（いちぐう）を照らす これ即ち 国の宝なり」

学校長 小倉 睦

台風15号に続き、10月12日関東各地を襲った台風19号で被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

台風が過ぎ、さすがに暑さは遠のき、過ごしやすい季節となりました。学校東側の自然園（マラソンコース）にある柿の実もちょうど食べ頃を迎え、収穫を待つ季節となりました。

11月は読書月間です。「灯火親しむべし」秋の夜長は、読書に最適であると言われています。読書の達人として有名な齋藤孝さんは、「音読」を進めています。齋藤さんは、

「音読のよさは、音読することによって、著者の書いた言葉が自分の中から出ていく感じが得られるからです。しかも音読するうちに、本にある言葉がしだいに自分の言葉のような気持ちになってきます。つまり、本の内容があなた自身と一体化して、あなたの体の中から言葉が湧き上がってくるような感覚になれるのです。」

と述べています。学校でも朝読書や授業での音読を行っています。ご家庭でも親子で読書に親しむ時間をつくってみてはいかがでしょうか。

さて、ラグビー日本代表の快進撃は、ベスト8で終わりました。

ラグビーワールドカップ日本代表は、準々決勝で強豪の南アフリカに敗れ、ベスト4入りを果たせませんでした。敗れた日本ではありましたが、試合が終わった後、選手たちが自分たちのチームへ寄せたコメントには心を揺さぶられるものがありました。

フッカーでキャプテンのリーチマイケル選手は

「このチームのキャプテンを務められて誇りに思う。」

スタンドオフの田村優選手は、

「間違いなく史上最強で最高のチームだった。このチームが大好きなので、負けたことよりも（このチームが）終わった悔しさが大きい。（中略）」

フッカーの堀江翔太選手は「自分たちがしてきたことをすべて出すことができた。最高のチームで、最後まであきらめない姿

勢を全員が持っていた。（中略）」

また、大会期間中、試合に出られなかった選手たちも対戦相手の特徴を分析し、対戦相手以上の激しさを意識して練習台になるなど、日本チームすべての選手が役割を果たしたことに心を打たれました。

そこには一人一人が「ONE TEAM」としてチームのためにそれぞれが全力で役割を果たした満足感にあふれた姿がありました。

ところで、先月行われた本校の運動会では、50m（低）80m（中）100m（高）と正確な距離での徒競走を行いました。走る距離はこれまでより少し長かったと思いますが、「運動会おもしろかった。」「優勝できて嬉しい。」など、子どもたちの力いっぱい取り組んだ後の感想が聞かれました。これも赤組、白組それぞれが「ONE TEAM」になってチームのために最後まであきらめずがんばったり、自分のやるべきことを果たしたりしたことへの満足の表れだと思います。

平安時代の僧の最澄は、

「径寸十枚これ国宝に非ず、一隅を照らすこれ即ち 国宝なり」

お金や財宝は国の宝ではなく、家庭や職場など、自分自身が置かれたその場所で、精一杯努力し、明るくて光り輝くことのできる人こそ、貴い国の宝であると述べています。また、一人一人がそれぞれの持ち場で全力を尽くすことによって、社会全体が明るく照らされていくことの大切さを人々に説いています。

六つ川西小の子どもたちの運動会も、今もっている力をすべて出し、精一杯努力したことにより、参観の方の共感を呼び、感動を与えてくれたものと思います。この誇らしい六つ西の宝である子どもたちを学校に気持ちよく送り出してくださっている保護者の皆様、本当にありがとうございます。また、六つ川西小を温かい目で見守ってくださる地域の皆様、重ねてお礼申し上げます。今月も地域清掃、各種地域行事等で子どもたちがお世話になります。今後共ご支援、ご協力の程、よろしくお願ひします。